

# S/F REAL4

## Q&A

### 【符号管理】

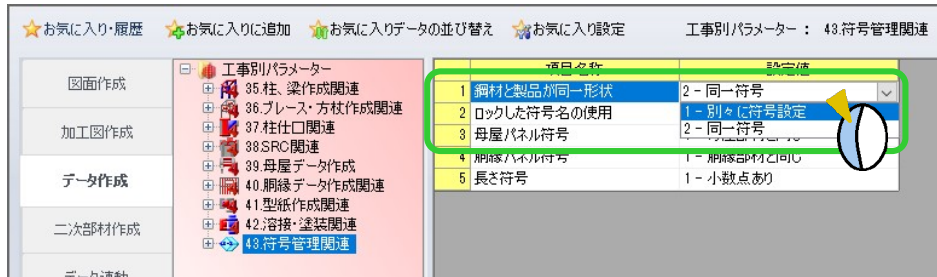
 あいホールディングスグループ   
株式会社 **ドットウェル** ビー・エム・エス

**DATA LOGIC**

# 鋼材と製品で別の符号をつけたい！ パラメーターで設定します。

【パラメーター】 - 【データ作成】 - 43.符号管理関連 - 1) 鋼材と製品が同一形状 で設定します。

1) 鋼材と製品が同一形状 の設定値によって、**符号管理** - **製品**で表示する部材データが変わります。  
パラメーターの初期値は2-同一符号です。



1-別々に符号設定：**鋼材**と**製品**でそれぞれ符号名を設定するため、すべての製品データを表示します。



**符号管理** - **鋼材**で設定した符号名を使用したい場合は、自動設定符号名ルールを“鋼材符号名”にしてください。

2-同一符号：鋼材と製品で形状が同じ場合、**符号管理** - **鋼材**で設定した鋼材符号名を製品符号名に割り当てます。製品符号も考慮して鋼材符号名を設定する必要があります。  
溶接で梁が取り付くなど、鋼材と製品で形状が異なるデータのみ**符号管理** - **製品**に表示します。



## 符号管理の集約条件とは？

どこまで見て同一形状かの条件を設定します。

例) 柱の符号を、工区が違ってても同サイズ同材質なら同じ符号名を振りたい。

集約オプションの集約条件 **【工区】** の  を外してください。

工区の  を外すことで、工区の認識をしなくなるので、同じ形状の柱は同一グループ番号が同じになり、同じ符号名が振られます。

※基本的に**【部材名】**は  をいれておいてください。

を外すと、部材名が違う同サイズ同材質の鋼材を同一グループ番号にしてしまいます。

集約オプション 柱

集約条件  
集約の条件となる項目に、チェックを入れてください。

工区  ガセット番号  二次部材番号  母屋・胴縁番号  ドーブチ番号  
 階  分類  グループ  塗装  建方  出荷  型紙図番  
 部材名

全選択 全解除 入替え

※ドーブチ番号はドーブチデータを参照するため、ドーブチデータを作成していないと集約に反映しません。

スタート 柱 コア単管 梁 ブラケット プレース かさ上げ材 胴縁

データ数: 16/16

No	種類	工区	長さ	サイズ	同一グループ番号
1		A工区	3455	□-300×300×19	10
2		A工区	3455	□-300×300×19	20
3		B工区	3455	□-300×300×19	20
4		A工区	3455	□-300×300×19	30
5		A工区	3455	□-300×300×19	40
6	本柱	B工区	3455	□-300×300×19	20
7		A工区	3428.9	□-300×300×16	50
8		A工区	3428.9	□-300×300×16	60
9		B工区	3428.9	□-300×300×16	70
10		A工区	3128.9	□-300×300×16	80
11		A工区	3128.9	□-300×300×16	90
12		B工区	3128.9	□-300×300×16	100



同一グループ番号とは？

同一形状の部材に自動的に振られる番号です。

集約条件のチェックによって、同じ条件になれば、同一グループ番号が同じになります。

例) 柱の符号を、工区・柱ガセット・二次部材の取り付けなどは見ず、長さで端部形状が同じ場合は同じ符号にしたい。

集約オプションで**【部材名】**にのみ  をいれてください。

集約オプション 柱

集約条件  
集約の条件となる項目に、チェックを入れてください。

工区  ガセット番号  二次部材番号  母屋・胴縁番号  ドーブチ番号  
 階  分類  グループ  塗装  建方  出荷  型紙図番  
 部材名

スタート 柱 コア単管 梁 ブラケット プレース かさ上げ材 胴縁

データ数: 12/16

No	種類	工区	長さ	サイズ	同一グループ番号
1		A工区	3455	□-300×300×19	10
2		B工区	3455	□-300×300×19	10
3		B工区	3455	□-300×300×19	10
4		A工区	3455	□-300×300×19	10
5		A工区	3455	□-300×300×19	10
6		A工区	3455	□-300×300×19	10
7	本柱	B工区	3428.9	□-300×300×16	20
8		A工区	3428.9	□-300×300×16	20
9		A工区	3428.9	□-300×300×16	20
10		A工区	3128.9	□-300×300×16	30
11		B工区	3128.9	□-300×300×16	30



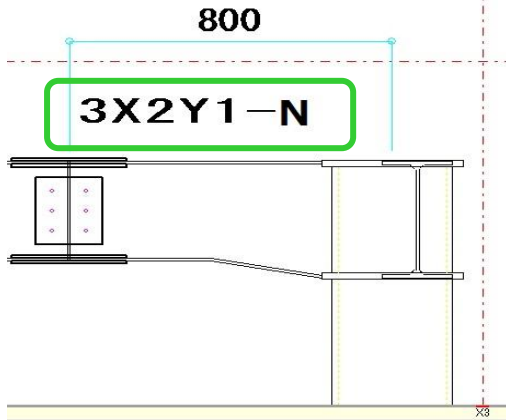
基本的に全て  が無い場合は切断寸法(長さ)と端部形状のみの集約となります。

したがって、 の数が多いほど符号名が分かります。

今回は**【部材名】**にのみ  を入れているため、部材名と切断寸法、端部形状のみをみて同一グループ番号を振っています。

# 🔑? ブラケット符号を階符号+キープラン名+方位で付けたい！

## パラメーターで方位の表示変更ができます。

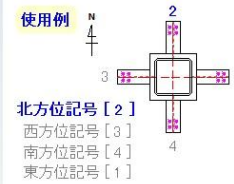


項目名称	設定値
1 図面タイトル	1 - 図面名のみ
2 材質マークスタイル	1 - 図形
3 方位ファイル	方位15
4 北方向角(度)	0
5 方位記号 北	N
6 方位記号 西	W
7 方位記号 南	S
8 方位記号 東	E
9 方位記号決定	1 - 北方向角を加味する
10 納め向きファイル	納め F5
11 補正なし	1 - 補正なし
12 部材方向	2 - 左下(若番)
13 方向表示内容	1 - キープラン

作図パラメーター - 図面作成 - 2.マーク・寸法線

5) ~8) 方位記号に表示したい記号や数字を設定してください。

北方位記号を入力します。  
符号管理でブラケットの符号をつける際に、方位記号で使用します。



符号管理 - 鋼材で、  
符号名設定を開き、  
“階認識符号”  
”キープラン交点” -  
”方位記号”  
に、設定してください。  
※スタート画面で設定し、  
一括作成してもOKです。

符号名設定 [ロックしている符号名を使用しない]

同一グループ番号の符号名の統一  
 符号名自動設定  
 符号の重複の許可

自動設定対象  
 全て  個別

対象データ  
 通常データ  
 △: 新規データ(過去に同じデータなし)  
 ○: 新規データ(過去に同じデータあり)  
 □: 過去データ(過去に同じデータあり)

絞り込み  
 符号名のない部材のみ(通常データ)  
 マークしたデータ  
 選択指定したデータ

通常データ内の同一グループ番号の符号名を使用

自動設定符号名ルール

工区 階認識符号 節 分類 塗装 グループ 部材名 現在の符号名 通しカウント

工区別カウント 階認識符号別カウント 節別カウント 分類別カウント 塗装別カウント

グループ別カウント 部材名別カウント キープラン交点 中央梁符号+LR 方位記号

始点接続(キープラン交点) 始点接続(梁に沿っている通り) 始点接続(梁と交差する通り)

終点接続(キープラン交点) 終点接続(梁に沿っている通り) 終点接続(梁と交差する通り) 長さ

製品符号名 製品符号名別カウント

例: 2X1Y1-N  
 “階認識符号”+“キープラン交点”+“方位記号”



梁伏図や軸組図にブラケット符号を表示させるには、作図パラメーター - 図面作成 - 5.梁伏図 - 32) ブラケット符号や 6.軸組図 - 37) ブラケット符号で『鋼材符号名 (#2)』を設定してください。  
 柱詳細図や仕口加工指示書にブラケット符号を表示させるには、図面作成 - 9.柱詳細図 - 27) ブラケット符号に『鋼材符号名 (#2)』を設定してください。



# 手入力で符号(合番)を変更する際に同じ形のものは自動で同じ符号にしたい！

## 符号管理内の設定にて自動で統一させる事が可能です。

符号管理内の画面右下の「絞り込み」タブをクリックします。

(例) 型紙「ガセット」タブ (「鋼材」「コア」仕口)「製品」の符号管理でも同様に設定可能です)

手動で符号を変更した際に同じグループ番号の符号も同時に変更したい場合は、以下の設定を

「**する**」にします。

変更する符号名を「符号」欄に入力し **ENTER** キーで確定します。

記号	現符号	→	符号	工区	階	節	分類	塗装	グループ	建方	出荷	継手名	サイズ	材質	同一グループ番号	形状番号
B-1	→	B-1	A	2SL	1	<無>	<無>	<無>	<無>	<無>	BJ20	PL-6x161.8x280	SS400	30	12	
<b>□</b>	<b>B-1</b>	<b>→</b>	<b>B-1A</b>	A	2SL	1	<無>	<無>	<無>	<無>	BJ20	PL-6x161.8x280	SS400	<b>40</b>	<b>13</b>	
B-1	→	B-1	B	2SL	1	<無>	<無>	<無>	<無>	<無>	BJ20	PL-6x161.8x280	SS400	30	12	
B-1	→	B-1	B	2SL	1	<無>	<無>	<無>	<無>	<無>	BJ20	PL-6x161.8x280	SS400	30	12	
<b>□</b>	<b>B-1</b>	<b>→</b>	<b>B-1</b>	B	2SL	1	<無>	<無>	<無>	<無>	BJ20	PL-6x161.8x280	SS400	<b>40</b>	<b>13</b>	
B-1	→	B-1	C	2SL	1	<無>	<無>	<無>	<無>	<無>	BJ20	PL-6x161.8x280	SS400	30	12	

同じグループ番号のガセット符号も一緒に変更されます。

記号	現符号	→	符号	工区	階	節	分類	塗装	グループ	建方	出荷	継手名	サイズ	材質	同一グループ番号	形状番号
B-1	→	B-1	A	2SL	1	<無>	<無>	<無>	<無>	<無>	BJ20	PL-6x161.8x280	SS400	30	12	
<b>□</b>	<b>B-1</b>	<b>→</b>	<b>B-1A</b>	A	2SL	1	<無>	<無>	<無>	<無>	BJ20	PL-6x161.8x280	SS400	<b>40</b>	<b>13</b>	
B-1	→	B-1	B	2SL	1	<無>	<無>	<無>	<無>	<無>	BJ20	PL-6x161.8x280	SS400	30	12	
B-1	→	B-1	B	2SL	1	<無>	<無>	<無>	<無>	<無>	BJ20	PL-6x161.8x280	SS400	30	12	
<b>□</b>	<b>B-1</b>	<b>→</b>	<b>B-1A</b>	B	2SL	1	<無>	<無>	<無>	<無>	BJ20	PL-6x161.8x280	SS400	<b>40</b>	<b>13</b>	
B-1	→	B-1	C	2SL	1	<無>	<無>	<無>	<無>	<無>	BJ20	PL-6x161.8x280	SS400	30	12	



「同一グループ番号」と「形状番号」とは？

### 【形状番号】

ガセットなど形状が同じ型紙には、同じ形状番号が振られています。

### 【同一グループ番号】

形状が同じ型紙で、さらに集約条件（工区や継手名）を考慮した上で同じと判断された型紙には、同じグループ番号が振られています。

(例) 集約オプション ガセット：工区

同一グループ番号	形状番号
30	12
<b>60</b>	<b>13</b>
40	12
40	12
<b>70</b>	<b>13</b>
50	12



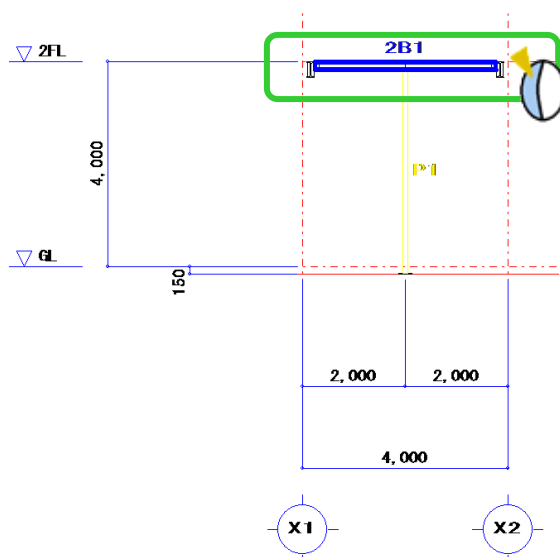
製品符号を梁の鋼材符号にしたいのに  
間柱の鋼材符号になるので変更したい！

代表部材指定で設定できます。

【工区・塗装】 - 【製品】 - 【代表部材指定】 を選択します。



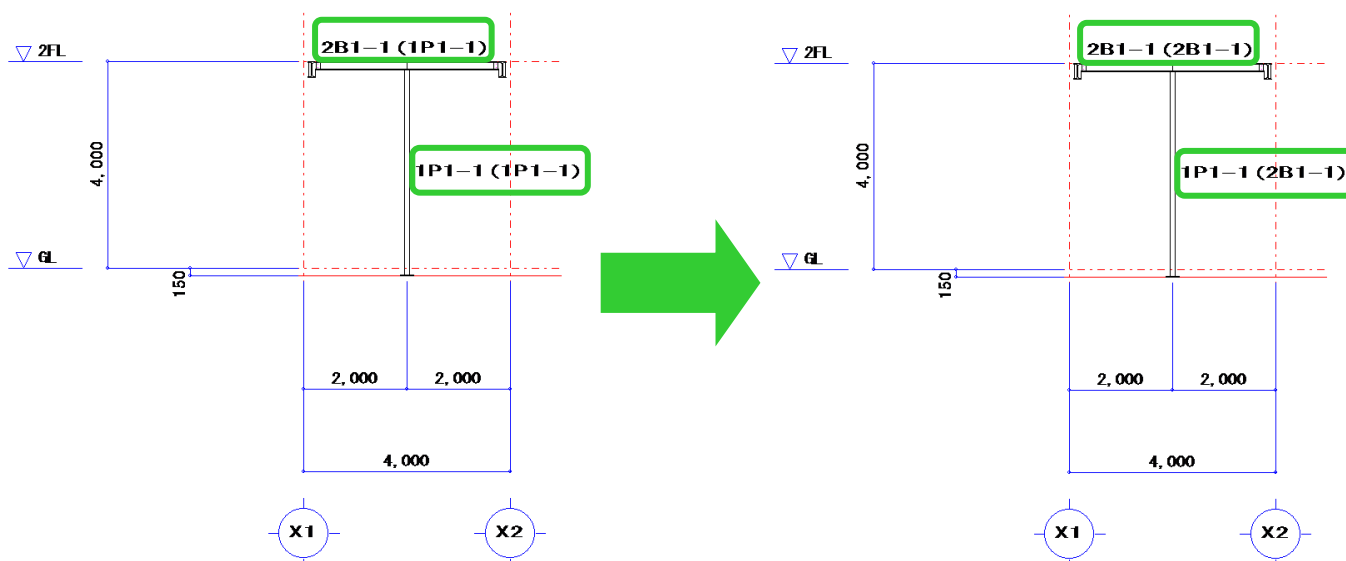
親にしたい梁をクリックします。



代表部材を梁にしたことで、製品符号の認識が梁の鋼材符号に変わります。

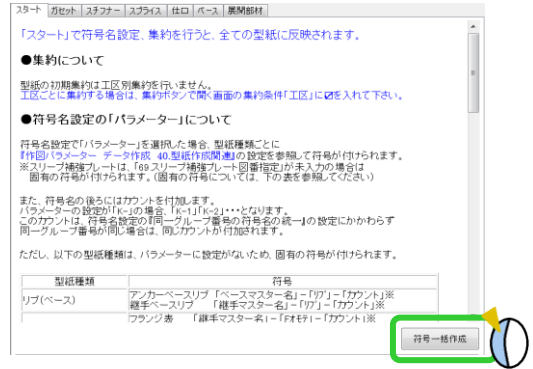
(作図パラメーター 6軸組図・37) 間柱符号・40) 梁符号が#2 (#3) の場合)

※#2：鋼材符号名、#3：製品符号名



# 型紙図番をパラメーターにして振っているが1から振り直したい！ 「パラメーターカウント」を「振り直し」に設定します。

【符号管理】 - 【型紙】 - 【符号一括作成】 をクリックします。



画面左下にある【パラメーターカウント】 - 【表示方法】 をクリックし、【2-振り直し】 を選択します。

OK をクリックし、再度型紙の符号を振り直し、符号名を保存して下さい。



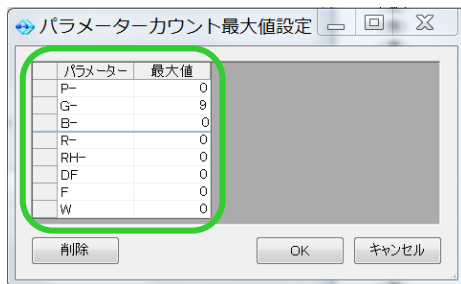
No	種類	記号	現符号	→	符号	工区
1			B-5	→	B-1	<無>
2			B-5	→	B-1	<無>
3			B-5	→	B-1	<無>
4			B-5	→	B-1	<無>
5			B-5	→	B-1	<無>
6			B-5	→	B-1	<無>
7			B-5	→	B-1	<無>
8			B-5	→	B-1	<無>
9			B-5	→	B-1	<無>
10			B-5	→	B-1	<無>
11			B-5	→	B-1	<無>
12	梁ガセット(小梁)		B-5	→	B-1	<無>
13			B-6	→	B-2	<無>
14			B-6	→	B-2	<無>
15			B-6	→	B-2	<無>
16			B-6	→	B-2	<無>
17			B-6	→	B-2	<無>
18			B-6	→	B-2	<無>
19			B-6	→	B-2	<無>
20			B-6	→	B-2	<無>
21			B-7	→	B-3	<無>
22			B-7	→	B-3	<無>
23			B-7	→	B-3	<無>



画面左下の【パラメーターカウント最大値設定】を設定し、【パラメーターカウント】 - 【表示方法】 - 【1-最大値】 で振り直すと、設定した最大値からカウントを開始します。

例) 大梁に取り付く梁ガセット (G-\*\*) の最大値を「9」と入力し、最大値で振り直した場合  
→ カウントは 10 から開始します。

※最大値を0にした場合は 1 から振り直します。



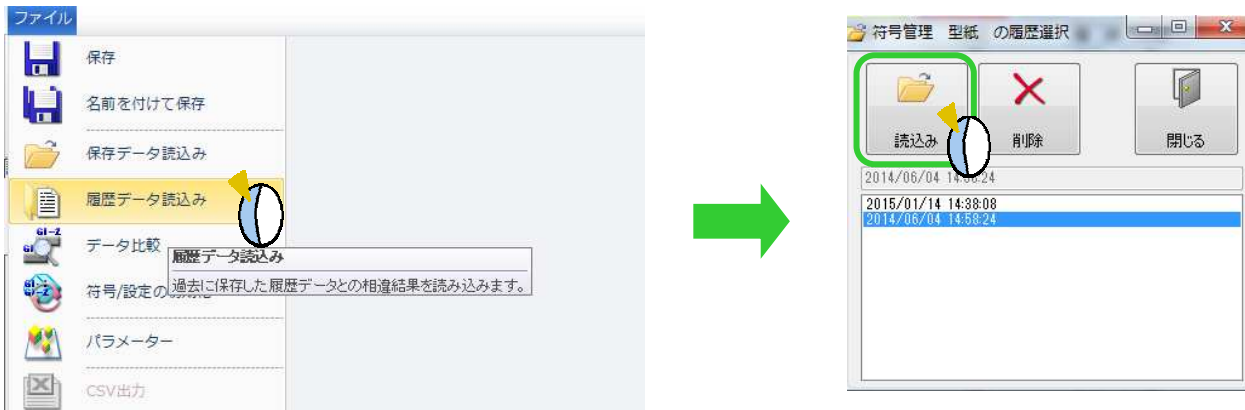
No	種類	記号	現符号	→	符号
1			P-1	→	P-1
2			P-1	→	P-1
3			P-1	→	P-1
4	間柱ガセット		P-1	→	P-1
5			P-1	→	P-1
6			P-1	→	P-1
7			G-1	→	G-10
8			G-1	→	G-10
9			G-1	→	G-10
10			G-1	→	G-10
11			G-1	→	G-10
12			G-1	→	G-10
13			G-2	→	G-11
14			G-2	→	G-11
15			G-2	→	G-11
16			G-2	→	G-11
17			G-3	→	G-12
18			G-3	→	G-12
19			G-3	→	G-12
20	梁ガセット(大梁)		G-3	→	G-12
21			G-4	→	G-13



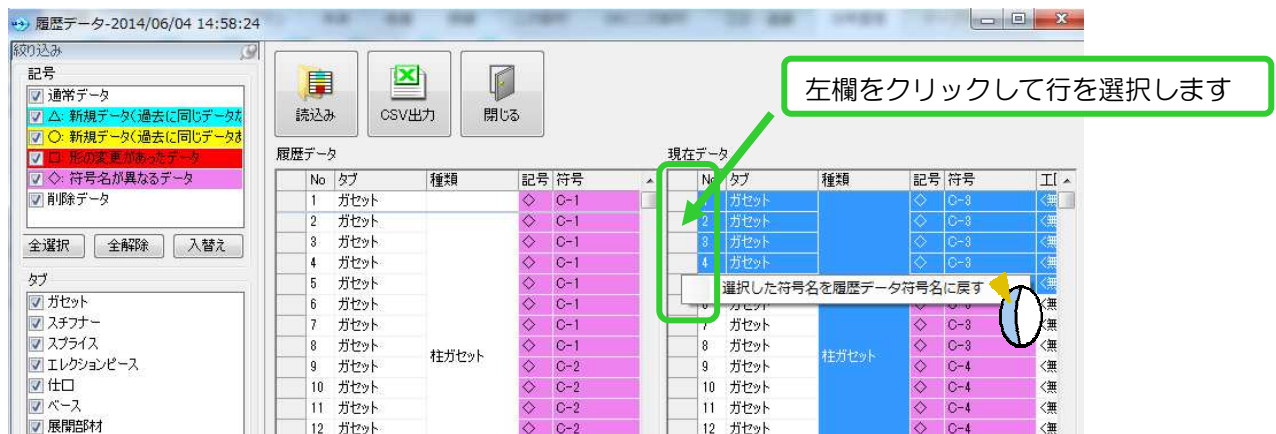
## 誤って型紙図番を振り替えてしまった。前の番号に戻したい！ 自動保存があるので、履歴から呼び出すことができます。

【ファイル】 - 【履歴データ読み込み】 をクリックします。

履歴は保存ボタンを押した際に残ります。読み込みたい日時を選択し、読み込みボタンを押します。



画面左側に履歴データ、右側に現在の符号名が表示されます。現在の符号名のNoの左欄をShiftまたはCtrlキー+左クリック、またはドラックして戻したい符号名の行を選択してください。現在の符号名のNoの左欄で右クリックします。【選択した符号を履歴データ符号名に戻す】を選択します。



履歴データ画面を閉じて、符号名が戻っていることを確認し、【保存】ボタンをクリックして下さい。



鋼材や製品名でも履歴のデータに戻すことが可能です。

また、保存時に自動的に履歴を残しますが

【ファイル】 - 【名前を付けて保存】 から手動で保存することも可能です。